

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>教育課程</p> <p>・地域密着型の連携型中高一貫校として、中学までの学びの上に、生徒が自らの多様な進路希望に向けた主体的な学習を行い、自己肯定感を高め、生涯に亘って学び続ける力を育む教育課程を研究・開発する。</p>	<p>小中高連携カリキュラムの研究。</p> <p>学び直し教科 i - Unit の実施と検証。</p> <p>AAL (愛川アクティブ・ラーニング選択) の実施と検証。</p> <p>地域と連携した伝統文化教育の推進。</p>	<p>・連携カリキュラム (スタンダード) は作成できたか。</p> <p>・i - Unit 実施マニュアルは作成できたか。</p> <p>・AAL の円滑な実施や発表ができたか。</p> <p>・地域と連携した伝統文化教育の推進ができたか。</p>	<p>・小中高で授業見学・協議を行いながら研究を進めた。</p> <p>・実施状況を踏まえながら次年度のマニュアルを作成した。</p> <p>・各教科・科目で工夫しながら、研究・発表を行った。</p> <p>・地域の教育力を生かしながら、伝統文化教育が展開できた。</p>	<p>・相互に授業研究を進めながら、連携カリキュラムを推進する。</p> <p>・引き続き検証と改定を進める。</p> <p>・教員間で情報・アイデアを共有し、体系化を目指す。</p> <p>・地域の力を借りつつ、より多くの生徒が関わられるようにしていく。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・小中高のつながりがさまざまな面で見えている。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・地域を含めた学校活動を展開して行ってほしい。例えば、教える側、教えられる側、ともに地域の方々も含めた形での日本語教室というものも可能ではないか。</p> <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <p>・i - Unit は、取組を開始する中で課題を明らかにし、大幅な改善を行った。AAL・伝統文化も大きな成果を上げた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・i - Unit は改善案を実施する中で、より実効ある学び直しに育てる必要がある。</p> <p>また連携による授業改善は更に推進し、カリキュラム化を図りたい。</p>
<p>生徒指導</p> <p>・多様な課題、問題、悩みを抱える生徒に対し、相談やサポートの体制を整え、一人ひとりに応じた対応を組織として行うとともに集団形成力を育成し自己肯定感を高め、コミュニケーションスキルを育む学校づくりを行う。</p>	<p>ケース会議を中心とした個別支援体制の構築。</p> <p>規律の徹底と声掛けの推進による集団形成力の育成。</p> <p>研修等を通じた職員の生徒指導力向上。</p> <p>JSL 対応について再組織化を行う。</p> <p>社会的マナーやルールの徹底。</p>	<p>・ケース会議を中心とした個別支援体制は構築できたか。</p> <p>・規律の徹底と声掛けの推進による集団形成力が育成できたか。</p> <p>・研修等を通じた職員の生徒指導力は向上したか。</p> <p>・JSL 対応について再組織化は行えたか。</p> <p>・社会的マナーやルールは徹底できたか。</p>	<p>・ケース会議を随時行い生徒支援体制の整備に努めた。</p> <p>・ひとつひとつ細かいことの徹底と継続が生徒の形成力を作り上げた。</p> <p>・4度の研修会を通して生徒の自己肯定感を高める基礎が作られた。</p>	<p>・情報共有をする事で徹底を図ることが課題として考えられる。</p> <p>・机上での研修から実践でどれだけ意識して出来るかが次年度の課題として考えられる。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・コミュニケーションをとりながら、みんなで進んでいく体制がよいのだと思う。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・年々学校全体・生徒たちがよくなってきている。挨拶がよいかりとできて気持ちがいい。</p> <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <p>・問題行動未然防止の観点から、研修を行い、職員意識の啓発が進んだ。併せて生徒個々の状況を踏まえた指導を推進できた。JSL への対応も、本校の指導の基本線を作ることができた</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・生徒との相談体制の拡充と、個別支援の一層の組織的対応について整備を進めたい。</p>

<p>授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自ら学ぶ力を育て、基礎的な知識及び技能の確かな定着と、その活用を通じた思考力、判断力、表現力を育成する授業を通し、自らの進路を切り開く力とコミュニケーション力並びに生涯にわたり学び続ける力を身につけさせる。 	<p>基礎力診断テストの導入と活用。</p> <p>小中高連携による授業研究の推進。</p> <p>学習習慣確立の指導と補習体制整備により確かな学力の保障。</p> <p>教科を超えた授業研究により、生徒の自己肯定感を高め、課題解決力、コミュニケーション力を身につける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストの導入と活用はできたか。 小中高連携による授業研究の推進はできたか。 学習習慣確立の指導と補習体制整備により確かな学力の保障はできたか。 教科を超えた授業研究により、生徒の自己肯定感を高め、課題解決力、コミュニケーション力は身についたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は2回、2、3年生は1回基礎力診断テスト実施した。 授業規律の確立等により授業に取り組む姿勢ができた。放課後補習等により基礎力の定着を目指した。 相互に研究授業・協議に参加し授業改善の一助とした。また、教科を超えたグループで授業づくりをし、新たなアイデアを出し合いながら授業改善を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談等で結果を活用することにより、学習指導・進路指導につなげる。 朝学習の充実等確かな基礎力の定着を目指し研究を推進する。 教科を超えたグループでの授業づくりを進め、新たな気づきを持って授業を展開していく。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒たちには自分の将来のことを考えてほしいし、時間を大切にしてほしい。ぜひ生徒たちに将来のことを積極的に考えさせてほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな面で受け手であったが、これからはどんどん送り手になってほしい。 さまざまな活動、作品を表現していい空間、雰囲気作りが有効であろう。 <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストの全校導入により、生徒個々の学力を把握すると共に、一人ひとりの生徒が自らの到達目標を持つことができるようになった。教科を超えた授業づくりと中高合同による授業改善は、高校職員にとって新たな視点を示す機会となった。(改善方策等) 事前の授業案づくりから中高の連携を活用するなど、一層の充実を図りたい。朝学習はさらに成果が上がるよう取組手法の改善を図りたい。
<p>キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に希望進路を決定するための選択力・意思決定力並びに情報活用能力を醸成する。 生徒が主体となる活動をつうじて、集団生活において他者と協働する中で自己実現を図ろうとする意欲を育てる。 	<p>1年次からの進路計画の系統化を進め、進路指導の質的向上をはかる。</p> <p>体験学習、インターンシップ、オープンキャンパス等の参加者を増やす。</p> <p>就職活動や進学手続きの事前指導の徹底。</p> <p>定期的な進路研修や大学等の最新の情報に触れる場を作り、職員の進路指導スキルの上昇。</p> <p>学校全体で部活動を支援する体制づくりを行う。(部活動加入率向上・維持のための諸行事・顧問への支援・広報など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年次からの進路計画の系統化を進め、進路指導の質的向上を図れたか。 体験学習、インターンシップ、オープンキャンパス等の参加者は増えたか。 就職活動や進学手続きの事前指導は徹底したか。 定期的な進路研修や大学等の最新の情報に触れる場を作り、職員の進路指導スキルは向上したか。 部活動加入率は向上したか。また、年間を通し加入率を維持できたか。 部活動週間は成果を上げたか。 指導者研修会など顧問への支援は行えたか。 部活動成果の広報は充実したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生徒に多様な進路の可能性を検討させるガイダンスを実施した。 インターンシップについては、3年生だけでなく1年生の参加も見られた。 外部講師の力も借りながら進路活動の事前指導については、ガイダンスの実施に加えて、個別支援も充実させた。 特に1年生においては、部活動の加入率。継続率の向上が見られた。 部活動週間は年間を通して設定し、顧問への支援を続けることができた。 部活動指導者講習会には、若手教員を中心に参加を働きかけた。 学校説明会に部活動の生徒を参加させ、中学生に直接PRする機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ野参加を1・2年の生徒に勧めていきたい。 生徒の可能性を広げられるような働きかけにつながる研修会の設定に努めていきたい。 今年度も部活動の加入率、継続率を向上させ学校全体の率を上げていきたい。 部活動の事故防止に向けて意識を高めていきたい。 H Pを定期的に更新し部活動の活動状況の更なるPRに努めていきたい。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中卒業後の進路も含めて、小中高が連携して進路指導をしていけるとよい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛川高校が、愛川町の進路のピラミッドの頂点になっていけると、町の教育全体がよくなっていくだろう。 愛川高校のサポーターとしてキャリア教育に協力していきたい。 町を含め、様々な分野で活躍する卒業生を進路指導のための人材として活用できるようにしたい。 <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通し、先を見越した丁寧な指導により、卒業生の進路決定率が約9割となり成果を上げている。また部活動も加入率だけでなく、通年の継続率も上昇。活動内容も多く部活動で実績をあげるなど成果を上げている。行事も前年以上の内容にしようとして生徒が意気込み取組むなど、自己肯定感やコミュニケーション力を高める取組ができた。(改善方策等) インターンシップやオープンキャンパスの参加者増加に向けて引き続き3年間を見通した指導を推進したい。

<p>地域等連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型の連携中高一貫校として、地域の教育力を活用し、地域との交流や情報発信を通し、生徒に自己肯定感とコミュニケーション力を育み、それぞれの地域において主体的に自己実現を図れる人材を育成する。 	<p>地域ボランティア等への積極的参加を進める。</p> <p>地域企業や人材を活用した進路講演会の開催。</p> <p>ハローワークによる就職講座の実施。</p> <p>地域の避難所訓練や防災訓練への参加を通し、地域に貢献できる人材の育成。</p> <p>広域避難所としての組織対応の整備。</p> <p>公式ホームページの充実を図り、タイムリーな広報に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア等への積極的参加を進める。 ・地域企業や人材を活用した進路講演会の開催。 ・ハローワークによる就職講座の実施。 ・地域の避難所訓練や防災訓練への参加を通し、地域に貢献できる人材の育成。 ・広域避難所としての組織対応の整備。 ・公式ホームページの充実とタイムリーな広報はなされたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ300人以上がボランティアに参加し、18名が単位認定をうけた。 ・地域の避難所訓練に参加することにより、災害時のボランティア活動への意識を養うことができた。 ・部活動、行事を中心に30回以上内容を更新した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ数だけでなく、参加する生徒の数自体を増やす。 ・避難所訓練だけでなく愛川町の防災訓練にも参加する必要がある。 ・個々の職員のスキルアップを図り、担当職員の負担を減らす。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーラーパネルの設置をきっかけに、環境教育も進めて行ってほしい。 ・生徒たちにはどんどん地域に出て行って欲しい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海底和紙・獅子舞・和太鼓の伝統文化をしっかりと受け継いでほしい。生徒たちがいろいろな活動で見せるアイデアはとても面白い。 ・中学生の間に連携生への憧れが出てきている。 <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材による進路講演なども推進できた。避難所訓練には生徒も参加し成果を上げた。ホームページも頻繁に更新され、中学生に本校の今を伝える事ができた。 (改善方策等) ・ボランティアは、今後参加生徒のすそ野を広げたい。またソーラーパネルの設置を受け、今後の避難所運営にも生かし方を検討したい。ホームページについては、更新のスキルを持つ職員育成を引き続き急ぎたい。
<p>学校管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と協働した防災意識の涵養を進め、地域からの信頼に根ざした学校づくりを進める。 ・事故、不祥事防止を徹底し、教職員の実践的指導力の一層の向上をはかる。 	<p>生徒対象防災訓練の実施。</p> <p>職員対象防災訓練・研修会の実施。</p> <p>より実効性のある防災マニュアルの作成。</p> <p>成績処理における事故防止、点検システムの構築。</p> <p>定期試験での全教科での同一科目共通テスト化を進める。</p> <p>職員研修を通し、法令順守、事故防止の意識を涵養する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象防災訓練の実施。 ・職員対象防災訓練、研修会の実施。 ・より実効性のある防災マニュアルの作成。 ・成績処理における事故防止、点検システムの構築。 ・定期試験での全教科での同一科目共通テスト化を進める。 ・職員研修を通し、法令順守、事故防止の意識を涵養する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象防災訓練を実施することにより、防災意識を高めることができた。 ・定例職員会議後の事故防止会議において職員の事故防止に関する意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員対象の防災訓練の実施が課題となった。 ・全ての業務において点検の合理的な方法を検討する必要がある。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の送迎についても順路等交通安全を呼びかけることも必要である。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車の交通安全は重要な問題で、生徒の指導も必要だが、根本的な解決には、周辺の道路環境の整備も含めて取り組むことにより効果が上がるだろう。経路も含めて広い範囲で取り組むとよい。 <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し、事故防止の意識の啓発を続けることができた。また管理職だけでなく職員各層が講師になることで、事故防止意識を深め定着する成果を上げている。 (改善方策等) ・テスト問題の共通化をはじめ、職員対象の防災訓練など今後の取組となる課題ものこった。